

令和6年度第2回新潟市南区地域福祉アクションプラン推進委員会 会議概要

日 時 令和7年3月3日（月） 午後1時30分～午後4時00分

会 場 新潟市南区役所 4階 講堂

<p>午後 1 時 30 分 事務局</p>	<p>開会</p> <p>これより令和 6 年度第 2 回南区地域福祉アクションプラン推進委員会を開催いたします。</p> <p>私は、本日の進行を務めさせていただきます、南区役所健康福祉課の地引と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>まず、本日の資料の確認をさせていただきます。まず、事前にお送りしまして、本日お持ちいただきましたのが、右上に資料 1 と表示された、表題が「令和 6 年度南区地域福祉アクションプラン分野別計画進行管理表」がございます。予備がございますので、もしお忘れの方がいらっしゃいましたら、職員にお声掛けいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。それから、本日配布の資料についてですが、4 点ございます。1 点目が次第、2 点目が委員名簿、それから 3 点目が座席表、そして 4 点目が「令和 6 年度南区地域福祉アクションプラン地区別計画進捗確認一覧表」、資料 2 です。この 4 点でございます。不足がある方は、職員にお声掛けください。いかがでしょうか。</p> <p>それでは、改めまして、これより令和 6 年度の第 2 回南区地域福祉アクションプラン推進委員会を開催いたします。</p> <p>なお、本日は 1 名傍聴人の方がいらっしゃいます。傍聴人の方は発言等はできませんので、予めご了解をお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、南区健康福祉課長の榎本よりごあいさつ申し上げます。</p>
<p>健康福祉課長</p>	<p>皆様、こんにちは。南区の健康福祉課長の榎本です。</p> <p>本日は、お忙しい中、南区の地域福祉アクションプラン推進委員会にご参加いただきましてありがとうございます。</p> <p>前は夏ごろでした。年 2 回という開催の中で、前は今年度の事業の内容についてご説明をさせていただいたところでございます。2025 年、今 3 月に入りまして 2 か月ほど経ちました。2025 年と言いますと、よくニュースでも出ておりましたが、2025 年問題というものがニュースとかでも叫ばれていたかと思ひます。皆様、ご存知かもしれませぬけれども、いわゆる団塊の世代の方が 75 歳以上、後期高齢者と言われる年代に入るところで、高齢化、超高齢化がかなり進むということで、いろいろ医療ですとか介護ですとか、経済で言えば雇用ですとか、いろいろ幅広い分野に深刻な影響を及ぼすという話が前々から叫ばれていたところの問題であります。ちなみに数字で言いますと、新潟市で言いますと、2025 年 1 月末現在の住民台帳人口ペー</p>

スで言うと、新潟市全体では高齢化率、いわゆる 65 歳以上の率というのは 30.7 パーセント、3 人に一人弱くらいですか。そして今言っていました、そのうちの 75 歳以上というのが、新潟市全体だと 17.4 パーセント、当初この 2025 年問題で 5 人に一人は 75 歳になるという話がされていましたが、新潟市全体で言うと、人口で見ればまだそこには至っていないという状況です。それを南区で言いますと、高齢化率 65 歳以上というのは 32.6 パーセント、市全体よりやはり高くてほぼ 3 人に一人という状況ですし、75 歳以上というのは 16.8 パーセント、市の 17.4 パーセントよりは若干低いような状況になっています。このように高齢化が進みまして、その中で認知症の方が増えてくるとか、いろいろ問題が言われている中なので、引き続きですけれども、地域で暮らせる方、安心して暮らせるようにということで、言葉で言うのは簡単なのですが、地域包括ケアということで、要するに地域で支えていくという取組を引き続き推進していかなければならないというのを改めて数字からも感じているところであります。

さて、このアクションプランというのは、前にも、夏するときにもお話しましたけれども、南区における子育て支援ですとか、障がい福祉ですとか、高齢者介護支援ですとか、地域づくりとかという福祉分野ごとに関連する施策をまとめています分野別計画、いわゆる地域福祉計画というものと、区内の各地域の生活課題の解決策を見いだすために、区の社会福祉協議会が中心になってそれぞれ関係者で相互協力して策定するという地区別計画という、今回の資料 1 と 2 でしょうか、二つに分かれた計画を総称して南区地域福祉アクションプランとっております。

今回の計画というのは、第 3 期ということで、計画の期間で言いますと 2021 年度から 2026 年度までの 6 年間の計画の中で、ちょうど今回が 2024 年度、年度で言えば 2024 年度ということで、折り返しの 3 年間のスタートの年が今になっているところであります。そのような 6 年間のうちの半分に区切った中で、皆様委員の方におかれましては、今年度からということで、今回の計画の後半の 3 年間で推進委員として、引き続きの方もいらっしゃるかと思いますが、お引き受けいただいているという状況になっています。

皆様方から、その分野別計画ですとか、地区別計画の進行状況をこちらから後ほどお話しさせていただきますが、それにつきまして、いろいろご意見をいただきまして、今後以降の取組に活かしていければと思いますので、本日も時間は長くなるかもしれませんが、ぜひとも

<p>事務局</p> <p>南区社会福祉協 議会事務局長</p>	<p>よろしくお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>続きますして、南区社会福祉協議会の小林事務局長よりごあいさつ申し上げます。</p> <p>南区社会福祉協議会の小林でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>本日はご多忙の中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。推進委員の皆様からは、日頃より南区地域福祉アクションプランの推進に多大なお力添えをいただいておりますこと、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございます。</p> <p>今年度も残り1か月ほどとなっておりますけれども、当期計画でありますこの第3期のプランも残り2か月弱ということでございます。推進にあたり、今年度も区内11地区において、各地区別の計画とスローガンのもと、推進目標に向けてよりよい地域づくりのため、さまざまな工夫を凝らしながら熱心な取組が進められてまいりました。この令和6年度の取組状況がどうであったかということをご地区において評価するために、1月以降話し合いが行われたところです。後ほどその概要並びに私ども社会福祉協議会が実施した地域づくりに係る活動事業等について説明をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>昨今の地域生活課題等につきましては、物価高騰や残るコロナ禍の影響等によりまして、さまざまな要因によって多様化、複雑化、深刻化しています。そのような中で、地域におきましても平時からの顔の見える関係づくり、助け合いの関係づくりについて、改めて重要性が増していると考えております。南区社会福祉協議会としまして、これからもよりよい地域づくりへの取組がさらに充実を示すように、また関係する多くの方々の連携、協働の中核を担えるように、今後も精一杯努めてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。</p>
<p>事務局</p> <p>青木委員長</p>	<p>本日は、南区の地域福祉のより一層の充実のため、委員の皆様から忌憚のないご意見等をお伺いできれば幸いです。本日もどうぞよろしくお願ひします。</p> <p>なお、本日の会議は、後ほど会議録を作成する関係上、録音させていただきますので、よろしくお願ひいたします。</p> <p>では、これより議事の進行をお願ひしたいと思ひますが、青木委員長より議事の進行をお願ひいたします。</p> <p>皆さん、こんにちは。本会の委員長を仰せつかつております新潟医</p>

事務局	<p>療福祉大学の青木と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、皆様方のお手元の次第に従いまして、これから進めてまいりたいと思います。</p> <p>議事の（１）「南区地域福祉アクションプラン分野別計画における令和６年度の取り組みと評価について」でございます。事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>それでは、議事の（１）令和６年度の南区地域福祉アクションプラン分野別計画における取り組みと評価についてのご説明でございます。分野別の取り組みと評価につきましては、主に計画どおりに進めることができなかつた箇所ですとか課題、その辺を中心にご説明申し上げます。また、４分野ございますけれども、一度に説明しますと長くなりますので、半分ずつに区切りまして、その都度ご意見、質問を受けたいと思います</p> <p>まず、子ども・子育て分野、それから障がい者・生活困窮者分野について、それぞれ担当よりご説明さしあげます。</p>
事務局	<p>南区健康福祉課健康増進係の岩見と申します。それでは、資料の子ども・子育て分野についてご説明いたします。資料１「令和６年度南区地域福祉アクションプラン分野別計画進行管理表」の１ページ目をお開きください。</p> <p>上から、分野別計画、子ども・子育て支援、基本目標「安心して産み子育てできるまち」、（１）「妊娠期からの切れ目ない支援」についてです。令和６年度の実績見込みの主なものについてご説明いたします。</p> <p>具体的な取り組み・事業の一つ目「多様な手法による子育て情報の発信」では、股関節検診等の各種健診や育児相談会、新生児訪問など、さまざまな機会を捉え、子育てに関する情報発信を行いました。</p> <p>具体的な取り組み・事業の二つ目「子育て中の保護者同士の交流促進、ネットワークづくり」では、子育て支援リーダーによる子育て広場を５５回開催し、延べ８９１人の参加の見込みです。また、従来から実施しているＢＰプログラム「親子の絆づくり」を４回、兄弟がいる母親を対象としてＢＰ２プログラム「きょうだいが出ました」を２回実施したほか、ＮＰプログラム「完璧な親なんていない」を１回開催しました。屋外交流会は、父親が参加しやすいようサツマイモの収穫体験を行い、例年同様定員を超える申し込みがあり、抽選のうえ１０月に実施しました。</p> <p>次に取り組みの三つ目と四つ目では、妊娠期からマタニティナビゲ</p>

	<p>ーターや地区担当保健師を中心に、支援が必要な妊産婦やアンケートに返信のない妊婦に電話連絡をし、妊娠中から出産後につながる支援を行いました。当初の目標では全産婦に電話連絡をする予定でしたが、必要な方を選んで連絡することとし、代わりに初産の妊婦を中心に電話連絡をする方向に変更いたしました。そのため、評価がBとなっている箇所がございます。初産婦の方は、自分から電話するほどの悩みはないけれど不安があるという方が多く、かかってきた電話をチャンスによくお話をされており、継続的な支援の入口となっていました。また、支援が必要な母子ケースの検討会を定例開催いたしました。</p> <p>次に（２）「地域で支えるゆとりある子育てへの支援」について、取り組みの二つ目「地域住民全体で子どもを育む意識の向上」では、地域住民の皆様との意見交換や情報共有を行うため、子育て支援リーダー活動報告会を開催しました。令和6年度の活動報告会は7月に開催し、子育て支援リーダーの活動紹介やグループワークをとおして、南区の子育て支援について意見交換、情報共有を図りました。</p> <p>2ページ目をお開きください。取り組みの二つ目「子育て支援リーダー、ボランティアの育成と活動の支援」では、子育て支援リーダーの人数が2名増の24人となりました。子育て広場に参加した人が、自分も活動に加わりたいとのことで、リーダーが2名増えています。子育て支援リーダースキルアップ研修は8回実施し、子育て広場開催に必要な知識の習得など、リーダーの育成支援を行いました。</p> <p>（３）「子育て支援施設の充実」については、施設の運営に当たって取り組みの二つ目、児童館運営協議会や支援センター会議を予定どおり開催し、関係機関の情報共有、意見交換を行うことで、ネットワークのさらなる強化を図りました。</p> <p>以上で、子ども・子育て支援分野の説明を終わります。</p> <p>続いて、障がい者・生活困窮者分野に移ります。</p>
事務局	<p>南区健康福祉課障がい福祉係の高澤と申します。障がい者・生活困窮者支援分野についてご説明いたします。3ページをご覧ください。</p> <p>「障がいのある人もない人も安心して暮らせるまち」を基本目標として、（１）「福祉サービス利用の相談体制充実」、（２）「障がいのある人と地域との交流」、（３）「自立支援体制の充実」の三つを柱に取り組みました。</p> <p>（１）の「福祉サービス利用の相談体制充実」につきましては、地域における関係機関同士の連携を強化するとともに、相談支援の中核</p>

青木委員長	<p>的な役割を担う基幹相談支援センターについて広く周知を図るものです。令和6年度の実績といたしましては、関係機関合同研修会や相談支援事業所連絡会を開催し、関係機関の連携強化やスキルアップに取り組んだほか、区だより、社協だよりやホームページなどで基幹や区自立支援協議会について広報いたしました。いずれも計画どおりであり、評価をAとしております。</p> <p>(2)の「障がいのある人と地域との交流」につきましては、地区社会福祉協議会の事業の中で障がい者との交流や訪問の機会をつくり、顔の見える関係をつくることができました。また、引きこもりの当事者と支援者の対談を聞く講座や、小中高校の総合的な学習の中で福祉や障がいに関する講話を行いました。いずれも計画どおりであり、評価をAとしております。</p> <p>(3)の「自立支援体制の充実」につきましては、障がい者地域自立支援協議会を4回開催いたしました。なお、協議会のほかに児童ワーキング、地域生活支援等拠点ワーキングの各部会を計9回、そしてケース検討会議を8回開催し、自立支援協議会で報告をいたしました。また、南区社会福祉協議会の事業で、南区地域福祉ネットワーク会議を2回開催し、地域と事業所のつながりをつくることにより、新たな助け合いのきっかけとなりました。</p> <p>下から3番目の「生活困窮者の就労支援」ですが、就労支援対象者の12人に対し就職者は5人であり、計画の50パーセントには若干届かなかったため、評価をBといたしました。</p> <p>次の「生活困窮者の相談支援」は、相談件数が増加しており、令和6年度は新規で66件の相談を受け、そのうち21件では生活困窮者自立支援制度の各事業を活用いたしました。また、活用に至らなかった相談者に対しても、関係機関と連携して支援を継続しております。併せて南区支援会議を運営し、専門職が連携してよりよい支援ができるようにネットワークづくりを行いました。</p> <p>以上で、障がい者・生活困窮者支援分野の取り組みについての説明を終わります。</p> <p>ありがとうございました。では、これから資料1、今ほどご説明いただきましたとおり、子育て支援分野と障がい者・生活困窮者支援分野、資料ナンバーで言うと1、2、3ページまでのところ、ここの箇所それぞれ委員の皆様方から何かご意見、ご質問等がありましたら、どうぞ挙手の上ご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
-------	---

<p>青木（昭）委員</p>	<p>では、青木委員。議事録作成の関係で、マイクが回りましたら、お名前を述べてからご発言いただきたいと思います。</p> <p>公募委員の青木と申します。大通地区です。</p> <p>最初に、二つほどあるのですけれども、一つ目は、子育て支援施設の充実ということでのお願いというか、意見を聞かせていただければと思います。私の地区の大通地区には、北部の児童館があるのですけれども、児童館とかかわりをもっているのですが、これからここにも数字があるように、利用者がどんどん増えてくるような、そういう環境にあるのかなと思っております。そういう利用者の居場所づくりでのそれぞれの児童館の工夫があると思うのですけれども、特に、例えば健康福祉課のほうでそういう居場所づくりへの工夫への取り組みとか、何かそういう具体的なものがこういう児童館にお示しがある内容があればと思ひまして、お聞きしたいと思ひました。</p> <p>二つ目です。これは、障がいのある者ということで、3ページになります。下から2番目の「生活困窮者の相談支援」というところ、この内容のコメントにもあるように、増加傾向にはあると思ひますが、私の勉強不足で申し訳ないのですが、生活困窮者の認定基準というのはどのような設定になっているのかなというところを少し勉強したいと思ひて、お聞きしたいと思ひます。</p> <p>以上、2点です。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>ありがとうございます。では、今、1点目ですね。今、北部児童館の事例が出ましたが、児童館に関すること、事務局のほうで答えいただけますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>児童福祉係の土田といいます。お世話になっています。</p> <p>今、青木委員から二つ質問をいただきました1点目、児童館の利用者の居場所づくりについてなのですけれども、南区内に4館の児童館があります。大通ですと北児童館になるかと思ひますけれども、各館それぞれ特色のある事業の取り組みをしていただいています。特に北児童館は、地域住民の方との距離が非常に近いということを感じています。各児童館で年2回運営協議会というものを開催してまして、そこで地域の方々からいろいろな意見を聞かせていただいています。北児童館ですと、もう少し暖かくなるとスリーオンスリーをすることがあったりして、そこで小学生、中学生、高校生の年代の子どもたちも遊ぶことができるかと思うのですが、来年度の事業計画においては、今回指定管理者が4館とも替わるということもありまして、これから新しい事業者がそれぞれ計画を作るのですけれども、運営協議会等で</p>

<p>青木委員長</p>	<p>地域の方々の意見を聞きながら、利用者の居場所についても取り組みをさらに深めていけたらいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。具体的なお示しができなくて恐縮ですが、お願いいたします。</p> <p>では、続いて障がい者生活保護、生活困窮者のところですが、生活困窮者の定義とといいますか、そういうところをご説明いただけますでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>保護係の田中と申します。私からご説明させていただきます。</p> <p>生活困窮者についてですが、基本的には生活保護には至らない方なのですが、経済面で何かしらの課題がある方と捉えて支援をしております。具体的には、それなりにそれなりに収入や年金があるのですが、お金の使い方があまりうまくなくて、例えば借金をしてしまって生活が回らなくなっていたりとか、そのほかにもお金はあるのですが、その使い方の面でなかなかうまくいかない、もしくは貯金はあるのですが、これから仕事をしていかないとそれがなくなっていってしまう、今後の経済面で課題があるような方、そういう方への就労支援であったりとか、先ほどのお金の使い方の面であれば、家計改善支援という、そういうお金の使い方のフォローをしていくと、そういう事業であります。そういう方、何かしらの事業で扱える方を、事業に限らずですが、生活困窮者ということで、相談があった方に対しては支援をしているような形になっております。</p>
<p>青木委員長 青木（昭）委員</p>	<p>という二つのお答えでしたが、青木委員、いかがでしょうか。</p> <p>特別、生活困窮者ということで、年収というか、具体的なそういう感じのものでの設定ではないという感覚なのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>おっしゃるとおりです。その方の課題に合わせて支援をしていくというような形になります。</p>
<p>青木（昭）委員 青木委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございます。委員長として補足しておきますけれども、児童館のご質問を最初にいただきましたが、児童館というのは、最近、新たに新設されたというのは聞いたことないですね。特にこの南区において児童館を四つももっているというのは、非常に他の区から見れば恵まれている。これは、旧白根市の時代からだと思うのですが、一方で、皆様方、よくご存知の放課後児童クラブとありますよね。新潟だとひまわりクラブというものがありますが、よくひまわりクラブの学童クラブと児童館の区別がつかないということがけっこうあるのですが、もともと児童館のほうが先ですね。歴史的に先</p>

藤井委員	<p>にできているわけですが、まずはそういう子どもたちの居場所、今、青木委員からご指摘があったとおり、居場所が非常に限られている。そのために、今、地域の中でこども食堂が広がっていったり、地域の食堂が広がっていったりということで、居場所づくりが今盛んに広がっていますが、いわゆる公的な施設、法律に基づいたものとして、歴史の古いものとしては、この児童館というものがあるかと思えます。ですから、それらの利用に向けた活性化とか、その辺というのはこれから非常に重要になってきます。ただ、子どもたちが皆歩いて通えるところにきめ細やかに児童館がこれからできるという時代はではありません。むしろ児童館の建物が老朽化していけば、むしろどんどん減っていくような方向性に多分なっていくと思いますので、当南区においては、この児童館を本当に大切にしていきたいと思っております。</p> <p>あと、生活困窮者のほうは、先ほど事務局から説明がありましたとおり、とかく市の支援というと、年収とか、何か一定の基準があつてということがよくありますけれども、これはまさに一人ひとりが抱えている課題というところに着目していますので、中にはお金はたくさん持っていたり今のように散財している人もいれば、それこそ低所得でお金はなくてもきちんとその枠の中で生活が回っている人もいますので、お金の多寡によって支援が必要か不必要かというところの物差しを当てていないというところでご理解いただければと思います。</p> <p>では、ほかにはいかがでしょうか。子ども・子育て分野、あとは障がい福祉の分野、あとは生活困窮者の分野になりますが。何でもけっこうです。ご質問でもけっこうです。この計画、このアクションプラン推進委員会は、皆様方の要望とかご意見によってどんどん事業が活性化していく場でもございますので、けっこうですがいかがでしょうか。では、藤井委員でしょうか。</p> <p>民生児童委員会から出ております藤井といいます。よろしくお願ひします。</p> <p>子育ての中で、屋外交流会が子どもたちや親御さんたちからすごく申し込みがたくさんあるのですけれども、毎年、例年同様定員を超えるためと書いてあるのですけれども、例年同様だから、もう少し増やすことはできないのかなと私は思ったのですけれども、サツマイモ掘りだからあれなのかなとは思いますが、回数を増やすとか、まだ参加したい方がたくさんいらっしゃるのだから、もう少し増やすことはできないのかなという疑問をもちました。</p>
------	---

青木委員長	<p>ありがとうございます。しごく当然のご指摘かと思いますが、ご回答いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。藤井委員からご質問いただきました子育て支援リーダーによる家族交流会の申し込みがいつもたくさんあって、抽選で漏れてしまう方がいるということなのですけれども、定員を増やすことができるかできないかなのですが、2点ほど増やせないかなという原因があります。一つは、会場の問題で、子育て支援リーダーオーエンジャーの知り合いの方の畑を借りているのですけれども、その畑の大きさが今の大体の定員の12家族分くらいなのかなというのと、あと、オーエンジャーのメンバーの目が届くくらいの範囲が定員の12組くらいなのかなということで、ここ何年かは12組でやらせてもらっていますが、本当に毎年倍以上の申し込みをいただいています。抽選のときは、初めて参加される方を優先に抽選させてもらっています。よろしくお祈りします。</p>
青木委員長 藤井委員	<p>藤井委員、そういうご説明でしたけれども、よろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>オーエンジャーの方のあれでやっていらっしゃるというのを聞いたのですけれども、もう少し広い場所を選択するとか、そういうようなことができないのでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。ここ何年かは、コロナになってから芋掘りを始めたのですけれども、同じ方から畑を借りてやっている状況なのですが、ずっと芋掘りでいいのかなというような意見も出ておりますので、もっとたくさんの方に参加していただけるような交流会の内容を企画していけたらと思います。ご意見ありがとうございます。</p>
藤井委員	<p>お願いします。</p>
青木委員長	<p>大変大事な、貴重なご意見をいただきました。そうですね。芋だけではなくてもいいですよ。当南区は、果樹も盛んなので、梨もぎだったり、あとほかに何か、もいだりするところ、広いところを見つければまだできそうな感じもしないでもないですので、その辺、また具体的なご提案がありましたら、お寄せいただければと思います。</p>
藤島委員	<p>というような感じで、ほかにいかがでしょうか。では、藤島委員でしたでしょうか。</p> <p>味方民生委員の藤島です。</p> <p>子育てというか、今までうちの周りも子どもがいたので、私も南区オーエンジャーのところには、イベントがあると声掛けをしていたのですが、最近は何っきり子どもの数がないというか、探してもいないというような感じの状況なのですが、今までは、民生委員として保</p>

<p>青木委員長</p>	<p>育園の入園式、卒園式、小学校の入学式、みんな参加してきているので、地域にどうい子どもがいるかということ、そこで初めてこういう子がいるのだなということを知ることができたのですが、コロナということで、コロナ禍から全然そういう参加の依頼もなく、どうい子どもがいるのかも分からず、そういう中で、私はもう 10 年以上になるのですが、保育園児が、こういう小さい子がいきなり小学校に入ると新潟交通のバスに乗って小学校に行くのですが、それがあまりに心配なので、ついて行くというか、学校までついて行って、帰りのバスも一緒に乗って来るといようなボランティアをしております。ただ、今、保育園の入園式、そういうものも全然見せていただけない状況だと、私はどうい子どもを連れてバスに乗って行くのだろうかとか、お遊戯会も見せられないというか、中に入れない状況なので、もう少し民生委員として子どもとかと皆接する場があるとすごく子どもの状況が調べられるというか、それがいいのではないかと考えております。</p> <p>これも私は知らなかったです。コロナ禍で一旦そういう学校に民生委員がなかなか呼ばれなくなったというのは承知していたのですが、今、コロナが落ち着いたので、また入学式、卒業式には民生委員・児童委員が呼ばれているかと思ったら、そうではないのですね。これは、南区だけですか。ほかに聞いたことはありますか。他の区でも。他の区でもというか、南区だけというのもおかしいですよ。これは、多分教育委員会が所管だと思うので答えにくいと思いますが、何かコメントはできませんでしょうか。例えば答えられなければ、教育委員会に言うておくということでもいいのですが。でも、すごく大事なことだと私は思いますね。地域の子どもたちと最初にコンタクトする入学式の場に民生委員・児童委員がいないというのはどうかなと思うのですけれども。</p>
<p>藤島委員</p>	<p>補足でいいですか。すみません。味方のほうは、子どもに出会うことがないので、とりあえず毎月 10 日というのは「いいあいさつ運動」ということで、民生委員全員で味方小学校の門で大きな声であいさつ運動ということで、そこで初めて子どもたちと出会っているという、そういうところがあります。あと、私はボランティアということで、「こめっくらぶ」ということで、水曜日の午後から、ボランティアなのですけれども、子どもたちと出会っているんで、顔を覚えてくれている。でも、民生委員全員が参加しているわけではないので、そこに出会っている子は朝になるとおはようと言って手を振って行くけれども、そこに行っていない民生委員とか、そういう方々は、そういう</p>

<p>青木委員長</p>	<p>声掛けもできない状況なので、何かいい場を見つけてほしいなと思っています。</p> <p>ありがとうございます。事務局、何か答えられますか。何でもいいです。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見ありがとうございます。本当に民生委員・児童委員ということで、児童委員としての業務がおありになる中で、地域の状況というのが分からないとというのはもったもたと思いますので、保育園ですと、うちの健康福祉課をとおして、本庁の担当課もありますし、そちらのほうにも運用について確認をいたしますし、学校につきましても、教育委員会の支援センターがあるので、どういう状況で、今、5類になって、そういう辺りの活動について、特段縛りがないかどうかも確認しましてご連絡できればと思いますので、まず確認したいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>では、課長、よろしくお願いします。</p> <p>余談ですけども、私、大学で民生委員の話などを学生に教えるのですが、学生に民生委員は何をしている人かと聞いたことがあるのです。そうしたら、入学式、卒業式に来るおじさん、おばさんだと言うのです。だから、記憶に残っているのですね。花を付けて、ご来賓で招かれるじゃないですか。だけど、別に何か話すわけでもないけれども、地域のおじさん、おばさんがきちんと自分たちの卒業と入学を祝ってくれているのだということが、いるというか、そういう存在がいて、その人たちが学校のほかのところにいるというのはすごく大事なことなので。でも、多分、コロナ禍で一旦途切れたじゃないですか。また民生委員さんたち一人ひとり招待したりするのに、言葉は悪いけれども、面倒くさい部分はありますよね。一人ひとりの出欠をとったり。その辺で、言葉は悪いですけども、コロナを言い訳にしてということが仮にあるのであれば残念だなと思うので、ぜひこの辺は、課長の一声で教育委員会に働きかけて。これは、多分南区だけの話ではないと思いますよね。ほかの区でも似ていると思いますので。では、今の貴重なご意見、何とかしたいなと思っています。</p>
<p>本間委員</p>	<p>では、ほかにいかがでしょうか。では、本間委員、お願いします。</p> <p>子育てオーエンジャーみなみの本間と申します。よろしくお願いします。</p> <p>子どもが減っている、減っているという状況ですけども、私たちオーエンジャーは、昨年度、同様の回数の広場を開催させていただいており、来ていただける方もそれほど減っている状況ではないという</p>

	<p> 感じで、本当に広場を開催させていただいて、活動させていただいて、ありがたく思っているところです。オーエンジャーとしては、この子育て広場と、先ほどご質問がありました芋掘り交流会、あと、BPプログラム、NPプログラムにも関係しております、そちらのBPプログラムを終了した後の、講座が終わった後のお母さんたちだけの交流会というものがあまして、そのお母さんたちだけが交流している場に行って、オーエンジャーはこういうグループですよ、こういう活動をしていますよというのを紹介するという活動もやっているのですけれども、特に「親子の絆づくりプログラム」と書いてあるほうなのですけれども、そちらは初めて赤ちゃんを育てているお母さんたちだけの集まりになっています。BP2プログラム「きょうだいがうまれた」というほうは、第2子以上の子どもを育てているお母さんたちです。寄せていただくと、全然お母さんたちの雰囲気が違うのですね。第1子を育てているお母さんたちは、オーエンジャーのことはまずご存知ない方がほとんどです。第2子以上になると、私たちもいろいろ活動をさせていただいているので知ってくださっている方が多いという状況です。第1子さんのところに行くとオーエンジャーはこうですよ、こういう活動をしています、皆さん来てくださいというようなアプローチをするのは、とても有効なのではないかなと、そのまま広場に出て来やすいかなと思っておりました。 </p> <p> 次年度の計画の中で、BPプログラムが終了すると聞いておりますので、私たちが今度出かけていく場がないのだなというような、その辺の残念さを今感じているところなのですけれども、第1子のお母さんたちは、とても初めてで不安なことが多いかと思うのですが、これはお母さんたちをつなぐという目的ももっていたプログラムで、こういうお母さんたちのつながりを大事にしたプログラムがあるといいかなと。次年度どのような形でどのようなことが行われるのか、私たちは分からないのですけれども、そのようなお母さんたちのつながりをつくっていくようなプログラムがあったらいいなと今感じているのと、またそこでオーエンジャーが何かかわれることがあればいいかなと今感じているところです。 </p> <p> 青木委員長 ありがとうございます。では、事務局からご回答いただけますでしょうか。 </p> <p> 事務局 本間委員の質問、ありがとうございます。BP講座、今まで南区健康福祉課で行っていた子育て講座なのですけれども、本間委員がおっしゃったとおり、南区では、令和7年度からは開催しない方向です。 </p>
--	---

	<p>というのは、公民館で行っているゆりかご学級と健康福祉課で行っているBP講座と、対象と中身が似通ったところがありましたので、令和7年度からは、区役所ではBP講座はいたしませんけれども、公民館と健康福祉課で共同で新しい乳児期の保護者を対象とした子育て講座を行う予定で今準備をしています。BP講座、ゆりかご講座という名前ではないのですけれども、乳児期の保護者を対象に、母子愛着形成等を目的とした講座を引き続き令和7年度も実施していく予定です。また、講座の中身についても、今、これから計画するところでもありますので、オーエンジャーのメンバーの方の活動の紹介とかもできるようなメニューになりましたら、そのときはご協力をよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。</p>
<p>青木委員長 本間委員</p>	<p>では、よろしいでしょうか。 よろしいですか。今のお話の中で、申し訳ありません。今のお話だと、今、公民館で行われているゆりかご学級もなくなるということですか。それと一緒にあって新しいものが出来上がるということですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ゆりかごとBPが合体したような講座というイメージをしていただければいいかと思います。ただ、予算は健康福祉課のほうではなくて、公民館のほうで予算要求をして、準備とか講座の中身などは、公民館と私たち健康福祉課と一緒に作り上げていきます。ゆりかごという名称はなくなるものと思いますが。</p>
<p>本間委員 青木委員長</p>	<p>承知しました。ありがとうございます。 大事な確認をいただきました。要は、名よりも実を取る、それぞれにそれぞれの目的でやってきましたが、似たようなことなので一つにして新たなものを生み出すというご説明でした。</p>
<p>事務局 事務局</p>	<p>ほかはよろしいでしょうか。では、時間等の関係もございますので、ほかになければ、事務局から引き続き説明をお願いしたいと思います。 続いては、高齢者福祉介護者支援分野になります。 南区健康福祉課高齢介護担当の川瀬と申します。よろしくお願いいたします。</p>
	<p>「高齢者介護者支援・健康寿命の延伸」の取り組みについてご説明いたします。資料1の4ページをご覧ください。 令和6年度も「高齢者も安心して暮らせるまち」を基本目標に、(1)「高齢者・介護者を見守り支え合うしくみづくり」、(2)「認知症対策と在宅医療に対する理解の推進」、(3)「健康寿命の延伸」の三つの目標を掲げ取り組みを進めてまいりました。以下、取り組みの結果について、順にご説明いたします。</p>

一つ目の目標「高齢者・介護者を見守り支え合うしくみづくり」のうち「地域全体で高齢者を見守る体制の構築」について、ふれあい・いきいきネットワーク事業の利用団体数が令和5年度の1団体から、令和6年度は利用団体がありませんでした。活動の実態といたしましては、減となった1団体についても活動自体は継続して行われており、事業そのものの意義に変化はありませんが、団体数がなしということでC評価といたしました。

次に、「支え合いのしくみづくりの深化・推進」及び「高齢者の総合相談窓口『地域包括支援センター』の周知」の取り組みにつきましては、資料にあるとおり、計画に対しては概ね達成したものと評価しA評価といたしました。地域の茶の間の開設が1件、またニーズのある地域に対して移動茶の間の支援活動を行い、南区だよりに地域の茶の間の記事を掲載し、情報発信を行いました。「共に生き支え合う南区地域づくりフォーラム」は、子育て支援に関する内容で開催し、高齢者の居場所づくりにつながるお話を聞くことができ、また、参加者の中で子育てに関する活動に参加してみたい、手伝ってみたいという方が多数いたことから、「こどもの居場所キックオフミーティング」の開催につながりました。

「地域包括支援センター」の周知につきまして、10月に大型小売店で開催しました相談会では、関係機関と協力し、健康チェックや何でも相談を行い、お買い物の途中の高齢者や働く世代の方が足を止め立ち寄っていただきました。

次の「地域ケア会議を活用した関係機関のネットワーク構築」の取り組みにつきましては、関係者の役割を理解するとともに、関係者同士の連携がスムーズな支援につながることを改めて認識し、問題解決にあたりました。それぞれの課題や個別の問題の解決に向け、関係者間で情報共有が図れた点を評価し、A評価といたしました。

続いて、二つ目の目標「認知症対策と在宅医療に対する理解の促進」についてです。上から三つ目「認知症の理解を深め、介護者を支える地域づくり」についてですが、認知症カフェの開催周知の取り組みとして、毎月南区だよりに案内を掲載したほか、9月には関係機関と協力して認知症の特集記事を掲載しました。また、認知症をテーマとした高齢者ケア会議や認知症サポーター養成講座を開催、働く世代や子どもたちに対して認知症への理解を高める活動を行いました。そのほか、認知症予防出前講座も含め、令和6年度は認知症について重点的に取り組み、そのことを評価し、認知症関連の項目はいずれもA評価

<p>事務局 事務局</p>	<p>といたしました。</p> <p>「在宅医療の普及・啓発」については、2月に白根学習館のホールを会場に、「70歳からの未来設計」と題し認知症とACPをテーマに講座を開催しました。会場とオンラインで計171人の受講があり、その内容も多くの方からご好評をいただき、在宅医療や今後の意思決定について考える機会を提供することができました。参加人数は目標200人の7割程度ということで、評価はBとしました。</p> <p>次に(3)「健康寿命の延伸」についてです。取り組みの一つ目は、ミニドック型集団健診の実施ですが、これは、健診を受けたことがない方が健診を受けるきっかけとなるように実施しています。手紙や電話での受診勧奨を行いました。自主的な予約が少なく、合計112名の受診でした。来年度も定員に近い予約数が入るよう働きかけを続けていきます。また、受診者の約7割が要受診の判定となっていますので、この方々が受けっ放しで終わらず、きちんと医療機関を受診し、生活習慣病に移行しないよう治療し、毎年度継続した健診受診につながるよう周知や指導を行っていきます。</p> <p>続いて、「はかろう体重！あるこう南区！大作戦」についてです。記録カードをリニューアルし、商工会や企業や区内の小中学校全校に記録カードを配布して実施しました。健康づくりに関する講座の実施については、概ね目標のとおり開催して参加者も増加傾向です。</p> <p>最後に「地区の健康づくりの活動の推進」についてです。地区の集まりなどの場で、健康教育を37回実施しました。今後は、未実施のコミュニティ協議会地区が生じないように、全地区での実施を目指します。</p> <p>以上で、「高齢者介護者支援・健康寿命の延伸」についての説明を終わります。</p> <p>続きまして、地域づくり分野になります。</p> <p>南区社会福祉協議会の小林でございます。それでは、私より地域づくり分野の取組実績についてご説明をさせていただきます。資料は、6ページからになります。</p> <p>今年度も、それぞれの目標に合わせた地域づくりを進めるために、社会福祉協議会の活動事業を行いました。主だった取り組みについてご報告いたします。</p> <p>(1)「地域のボランティアや福祉活動の情報発信と活動支援」についてです。上から二つ目になります。「ボランティア情報誌の発行」についてです。計画では、ひきこもりに関する福祉教育講座の内容から読み物を作成して発行することを、合わせまして5回発行としてお</p>
--------------------	--

りましたが、作成が困難だったことから、従来のボランティア情報誌を区社協だよりと合併号での発行と合わせて4回発行したところです。

次に、五つ目の「総合的な学習の時間をはじめとした福祉教育の充実」についてです。年度初めに南区の小中学校の校長会におきまして、福祉教育プログラムの説明をさせていただいたこともありまして、総合学習で福祉教育を取り上げてもらえる学校が増えました。

そして、その下「ボランティア交流会の実施」についてです。ボランティアグループの会員も高齢化が進んでいる中、高齢者の参加、活躍の場としてこれからも活躍できますように、令和4年度から介護予防やいきいきできる内容をテーマにシリーズ開催をし、好評を得ております。

次に(2)「地域の茶の間・ふれあいいきいきサロン活動の支援」ということとなりますけれども、三つ目の「地域の茶の間の活動紹介や内容メニューの冊子作成」についてです。第一層協議体の会議におきまして、高齢者が参加、活躍、介護予防できるような活動を支援するツールとして、地域の茶の間への講師派遣メニュー表を作成いたしました。

次はその下「地域の茶の間の立ち上げ支援」についてです。計画では2団体としており、地域の茶の間空白地域への働きかけは行いましたが、地域の茶の間立ち上げを希望される団体が少ない現状もあり、1団体にとどまったというものでございます。

次の7ページです。二つ目です。「地域の茶の間への移動支援の検討」についてです。移動支援が必要という声が上がった地域で検討をすすめるという計画でしたけれども、送迎の支援につきましては、生活支援サービス実施団体において検討協議を進めており、庄瀬、小林、味方の地区で通院や買い物の送迎支援に取り組んでいらっしゃいますけれども、地域の茶の間への送迎の検討には至っていないという状況でございます。しかし、新飯田地区においては自主的に検討が進められ、特別養護老人ホームの車両で地域の茶の間の参加のために送迎をしてもらうということができたという例を聞いております。評価としてはDという形でございます。

次、(3)「個別・地域課題の解決に向けた取り組み」についてです。一つ目「ひきこもりに関する講座や家族の居場所、関係機関連絡会などの開催」についてです。ひきこもりに関する、ひきこもりの方への支援事業としてひきこもり支援連絡会を1回、家族の居場所と当

事務局	<p>事者の居場所を毎月開催いたしました。大雪のため、1月と2月の開催が休止となりました。また、10月には福祉教育講座を開催、ひきこもり経験者の方と支援者の方の対談を聞くことができました。</p> <p>そして二つ目「買い物など移動支援の検討」についてです。令和5年度から開始した生活支援サービスサミットにおきまして、買い物や通院などの移動、外出の支援について、生活支援サービスを実施している団体同士で現状や課題等を話し合いました。</p> <p>次に三つ目です。「コミュニティソーシャルワーカー相談体制の充実」についてです。計画どおり、今年度もひとり親や生活困窮世帯への食料相談支援事業を実施いたしました。食料をお渡しする中で、自然に生活状況を聞きとることができまして、必要な支援につながることできたという世帯もございました。</p> <p>以上、社会福祉協議会として取り組んだ地域づくりの実績についてのご説明でございます。</p> <p>健康福祉課地域福祉担当の山田と申します。どうぞよろしくお願い致します。</p> <p>私のほうは、7ページをお開きいただきたいと思います。「私たちが支えあい、助けあうまち」下段の(4)「避難行動要支援者に対する支援の充実」についてお話しさせていただきます。</p> <p>「避難行動要支援者名簿と登録対象者の確認」については、令和6年度の計画についても例年どおりの取り組みとなりますが、毎年10月以降に75歳以上の高齢者世帯や身障者手帳の所持者など、要支援者登録の対象要件を満たしてまだ登録されていない方に民生委員の皆様のご協力をいただきながら、個別に訪問いただき、制度の説明と、併せて名簿登録の支援をお願いしているところです。名簿登録の更新時期は、例年6月と12月の年2回です。</p> <p>次の対象者への意識づけにつきましては、先ほどお話ししたように、登録要件を満たしていながら登録されていない方に対し、民生委員の皆様から個別に訪問いただき、制度の説明と名簿登録の支援を年1回お願いしているところです。その他、地域総務課において、区だよりにおいて制度周知の記事を1回、7月と11月に自治会防災会の支援者に向け、制度周知の文書を発送しております。</p> <p>要支援者の支援訓練につきましては、制度周知と訓練の提案を行った結果として、23団体中15団体で実施が行われました。特に月潟地区におきましては、全8自治会から訓練を実施いただきました。地域総務課からは、引き続き制度の周知を行っていくとのことでした。引</p>
-----	--

	<p>き続き地域との協働により、避難体制の確立や避難行動要支援者の支援に向けて地域総務課と協力して取り組んでまいりたいと思っております。</p>
青木委員長	<p>以上で、説明を終わります。よろしく申し上げます。</p> <p>ありがとうございました。では、高齢者福祉、介護支援分野と地域づくり分野のご説明を今いただいたところですが、資料で言うと4ページから7ページまでの説明がありましたが、この間で何かご質問、ご意見等がございましたら、どうぞ挙手をしてご発言をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。西野委員、お願いします。</p>
西野委員	<p>運動普及推進員の西野です。よろしく申し上げます。</p> <p>4ページをお願いします。安否確認のことについて、一例として給食サービス等で白根地区と味方、月潟とありますが、大通地区関係では安否確認の方法はどのようなものがあるのか、お尋ねいたします。</p> <p>2番目、認知症予防の出前講座の開催についてですが、前年度は3会場、今年度は5会場と増えているということで、具体的に会場名が分かりましたら会場名をお知らせください。</p> <p>最後に5ページ、健康づくり講座についてですが、免疫力アップ講座、ウォーキング講座ということで、前年度に比べて数多く参加者がありましたが、ほかの地区、8区の中のほかの地区で講座をやっている場合は、これはとても役に立つ、これからもずっと続けたいということで、サークルとか何かを作って独自に活動されているように聞いているのですが、南区の場合は、講座を受講したら、はい、さようならで1回だけになるのが少しもったいないなという感じがいたしますので、その辺の取り組みなどをお聞かせ願えればありがたいです。以上です。</p>
青木委員長	<p>では、3点ほどご質問がありました。では、最初のところ、見守り安否確認のところについて、事務局からご説明をお願いしますでしょうか。</p>
事務局	<p>山田です。配食サービスの状況ということでご質問いただいたかと思えます。配食サービスにつきましては、75歳以上のひとり暮らし世帯や高齢者夫婦で75歳以上の世帯など、または要介護認定とか障害者手帳を持ったりとかして、一人で栄養のバランスのとれた食事が摂れない方等を対象に、申請によって配食サービスという、お昼になりますけれども、火曜日と金曜日のお昼にその対象者のお宅に業者が伺ってお弁当を配達する制度になります。味方、月潟につきましては、現在、社会福祉法人南福社会というところが実施しております、その</p>

<p>町屋委員 西野委員 町屋委員</p>	<p>弁当は月潟地区にある南天の会という団体が弁当をボランティアで作っておりまして、その弁当を対象者の方に配達を行っているところがございます。味方、月潟以外の南区内の、旧白根地域になりますけれども、旧白根地域につきましては、宅配クック123という事業者が弁当を配達するような形、対象者の方に配達するような形で、配達と同時に弁当を手渡して渡して受け取るので、まだ元気でいられるなどということで安否確認を行うという制度になっております。</p> <p>ご質問の答えになっていますでしょうか。</p> <p>大通地区でしたら私が説明できますけれども、よろしいですか。</p> <p>大通地区はどういう。</p> <p>大通地区でしたら私が説明できますが。私が担当しておりますので、代表で。</p>
<p>青木委員長 町屋委員</p>	<p>では、町屋委員、代わってお願いできますか。</p> <p>大通地区で高齢者の見守りを担当しております責任者の町屋と申します。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>大通地区では、毎年70歳になられる方を高齢者名簿から抽出いたしまして、こちらは家族がいてもいなくても、お一人でも、子どもさんがいようが、全部70歳になられた時点で全訪問させていただいております。その方の訪問の際に、それから以降、毎年訪問していいか、もしくは年度内に何回訪問していいかということを、皆様に訪問回数を確認させていただいていることもありますし、もしくは1年に1回でいいから来てほしいという方については、大体1年に最低1回から2回はそれ以降も何か理由をつけまして訪問させていただいて、課題がある方については、社会福祉協議会とか包括支援センター、もしくは私が担当しております保護係のほうに相談に行きまして、福祉に関する対処をしております。以上ですが。</p>
<p>事務局</p>	<p>西野委員、よろしいでしょうか。</p> <p>では2点目、認知症の予防出前講座に関してですが、説明をお願いできますでしょうか。</p> <p>健康増進係の岩見です。</p>
<p>西野委員</p>	<p>質問の4ページ目の下から3段目「認知症予防出前講座の開催」の5会場15回の会場の内訳が分かればということでもよろしかったですでしょうか。すみません。私のほうは、担当者から5会場名を押さえて聞いてこなかったの、総数しかこの場では分かりません。申し訳ございません。</p>
<p>西野委員</p>	<p>大通地区はありましたか。</p>

	<p>てしまうというのがよくあって、それが個人、自分のためにいい勉強をした、知識を得たということで、個人の満足で終わる、それはそれでいいのしょうけれども、それも何か同じような立場というか、同じものを学んだ者同士で今度は他人のためにも動いてみようとか、例えば、今度は自分たちのグループの結束をより固めていこうみたいなことがあると、そういう組織化とかグルーピングしていくというのはすごく大事なことで、それがまた継続につながるわけですね。ですので、そのためには、どうぞ勝手にやってくださいではなかなか育たないので、誰かサポートしてくれる人がいたほうが良いということですので、今後、その辺も検討するというご回答だったかと思っておりますので、大変重要なお指摘をいただきました。ありがとうございました。</p> <p>では、ほかにはいかがでしょうか。では、町屋さんは先ほど話したので、本間さん、先に。</p>
<p>本間委員</p>	<p>すみません。ありがとうございます。5ページのところをお願いいたします。「はかろう体重！あるこう南区！大作戦」というところなのですが、私、この取り組みに参加していますし、周りの方にお勧めしてカードをお配りしたりしているところなのですが、何年かやっていらっしゃる取り組みだと思っておりますが、令和5年のカード提出枚数と令和6年で少し減っているというような状況です。それ以前のもので分からないので、これは傾向としてどうなのかなというのが一つと、それから、私などは、お配りしていて、この方はやってくれるというので毎年やってくれる方はやってくれるのですが、では別の方にとすると、いやとおっしゃる方が多くて、なかなか新しい人を見つけられないという状況ではあるのですが、もしかしてこのカウントされている人数は、無記名であると思うので、無記名の方もいらっしゃると思うので、氏名を書かれていない方もいらっしゃると思うので、はっきりした数は把握できないのではないかとと思っておりますが、同じ方が毎年やっていらっしゃるという人数が多いのかな、どうなのかなと思って、その辺をお聞きしたいと思っております。お願いします。</p>
<p>青木委員長 事務局</p>	<p>では、事務局、お願いできますでしょうか。</p> <p>資料5ページ目の1番目の「はかろう体重！あるこう南区！大作戦」についてのご質問ですが、カード提出数が、今年は年度途中なので、去年の完結年度の716枚より少し少ないのは、まだ年度途中で2か月ほど残っているので少ないというところではありますが、平年的に見ますと大体700枚前後くらいの提出数で、横ばいという感じで、それほ</p>

	<p>ど増えてきたりとか、そういうこともなく、そのくらいの数で減らずにきています。</p> <p>これをやって提出している、商品をもらっている方はリピーターではないかというご質問なのですが、実はこちらの事務局もそうではないかという確認方法がないので、皆様に初ですかリピーターですかみたいな記載欄をつけて達成賞をお渡ししているのですけれども、やはり空欄が多くて、なかなかすべての人にお答えいただけていないので、本当に全部のうちの誰がリピーターで誰が新規なのか分からない状況なのです。でも、委員の言うとおりに、手応え的に何か新しい方はやらないし、やったことがある人ばかり前向きになっているということであれば、やはりその意見を反映して、我々はやはり新しい方を開拓して、リピーターの人ばかりに恩恵がいかないように、少しやり方とかをチェンジして、形を変えながらやっていく必要があるかなと思いますので、ご意見ありがとうございました。</p>
青木委員長	<p>よろしいでしょうか。</p>
本間委員	<p>はい。ありがとうございます。</p>
青木委員長	<p>なかなか難しいですね。新規とリピーターの区分けというのは、では、先に町屋委員、手を挙げていましたので、すみません。先にそちらにさせてください。</p>
町屋委員	<p>すみません。大通の町屋と申します。この度の高齢者の介護支援とか健康寿命の延伸ということで、この前の研修につきましても非常に役に立つお話を研修会で聞かせていただきまして、介護の区民講座でしたね、非常に役に立ちましたのですが、先月 27 日に新聞に載っておりましたのですが、これについての対応について、国からどのような形で県や市に下りてくるのかということ、今後のこういう会議のときに教えていただきたいことがありまして、今、マイクを取らせてもらったのですけれども、今まで私ども、介護については、厚生省のほうでやっていただいているものだと思って、私もずっと 20 年近く勉強させていただきました。それが、今後は経済通産省のほうですか、そのほうで民間介護のサービスの認証ということをやるということで、民間会社が 10 社ほど集まりまして何か話をしまして、今年の夏頃からその認証をやっていくとかということが新聞にも書かれておりましたのですけれども、高齢者がサービスを受ける際に、今でも皆さんが 1 割負担で済んでいるのかどうかということも不安で、それこそ私どもに相談してくることもあります。それが、今度はこの認証されたサービス会社の方たちは負担 10 割ということで募集されているわけなの</p>

ですね。ですから、いろいろな形で介護に関する話が非常にごっちゃになるという形の部分が、公開されるということなのですから、あとは苦情を相談する相談室も作るということなのですが、各県、各市、各区にこういうことまで作っていったら、その費用の負担だけでもかかって、それが10割負担の利用者にみんなかかっていくということになると、本当に介護が高いものになるかと思って、私もこのニュースを見まして心配しておりますが、本当に介護についての理解度というのは、私が回っていても、今の70歳、80歳の方たちは不安だけで生活している方たちも確かにおられるのですが、それが分からないという不安なのです。分かっている、ただただ経済的な不安という方も中にはいるのかもしれませんが、分からないからという不安で相談してくる方がおられるのですけれども、私も一市民でしかなく、情報というのはいろいろな研修会に出たときの研修の講座で知り得ること、認知症についてはそれこそ最終的な講習も新潟市でやったのを受けてはきましたけれども、それがいつ役に立つのか、自分自身もこれからまた勉強していかなければいけないのですが、そういうことは受けておりますけれども、それ以上に本当に心配しているのは、二つの省がきちんと相談し合って課題をきちんと見つけて、それを解決し合って住民の方たちにサービスをやっていくという民間サービス、介護サービスなのであれば非常にいい形になるかと思うのですけれども、今言ったように、これからそれを広めていくための費用とかそういうものを全部計算して負担は10割というような形で、最近新潟市でも、また新しい有料ホームが建ちましたけれども、今後建っていくのは、特養ではなくて、そういう10割負担の老人ホームができていくのだと思います。この前も私、北区のほうの老人ホームを見学に行ってきましたけれども、そこもやはり10割の施設でした。非常にリハビリ施設とかそういうものも完備された施設でしたけれども、介護1とか介護2の方が本当にこれを利用できるリハビリ施設なのだろうかと思うくらいの施設なのです。今、建っているところは。でも結局、そういうことを準備しないと国から許可が下りなかったのかどうか、それは私は分かりませんが、そういうことで今不安になっているのは、先ほど話をしました民間介護サービス認証というのが今後どのような展開をされていくのか、情報が分かりましたら教えてほしいというのと、あともう1点、先ほど一番最後にお話がありました避難行動要支援者なのですが、こちらのほう、それこそ私も説明に回っている一人なのですが、最近、自治会に入らない方が出てきております。自

	<p>治会に入らないけれども、支援はしてほしい。すみません。私ども、この支援登録を説明するときは、共助が含まれているということで説明を受けているのですけれども、受ける側は自治会に入らないで、助けるほうは自治会費を払って自治会の委員として生活している人たちから支援は受けたいというような人が出てきているということ。この前の大通のコミュニティ協議会でも会長に話をしましたら、まだ自治会長にはその話をしないでくれと、混乱してしまうからという話で、自治会長には話ができませんでした。登録を推進するのはいいのですが、自治会に入らない方が出てきているということを、すみません、把握しておいてください。よろしく願いいたします。以上です。</p>
青木委員長	<p>では、2点ほどご質問等がありました。最初の民間サービスと介護保険サービスとの違いのことをご指摘されていると思うのですが、何か市、区としては情報をお持ちでしょうか。</p>
町屋委員	<p>まだ下りてきていないと思います。</p>
青木委員長	<p>では、答えに窮しているようなので、私に分かる範囲ですけれども。まず、いずれにしましても、厚生労働省だけが介護をやっているという認識は、私はもたないほうが良いと思うのです。多分、今の話は、医療の世界で言えば、保険診療か自由診療かみたいなところで、当然ですけれども、お金がある人は高いサービスをたくさんお金を出して買えばいいという、いわゆる経済の基本的な原理ですよね。ですのおで、そこで多分サービスの水準が劣悪だと悪いので、一つの認証制度を設けようということだけの話のような気がします。ただ、それが厚生労働省と経済産業省のほうできちんと連携がとれてやっているかと言われると、そこは一度むいてみないと分からない話で、ただいずれにしましても、悪いサービス、高いお金を出しているのに劣悪なるサービスを提供しているところは、これからはどんどん淘汰されてなくなっていくはずなので、そこはそういうところを選ぶ人は当然いないと思います。ただ、最近の流れからいうと、いわゆる介護保険制度に基づく建物よりも、先ほど町屋さんが言ったみたいに有料老人ホーム、そういう高いお金を出して入るようなところの建設があちらこちらに建っているような、何となく感覚的ですが、ですから、ただでさえ今施設が足りなくて待機している人がたくさんいて、介護をする専門職が足りないと言っているのに、一方では多額のお金を積まないと入れないようなところができているみたいな伝わり方がされているような気がしないではないと私は思っています。ですので、その辺はまだ正確な情報を得たうえでの見解になろうかと思えます。新聞報道</p>

<p>事務局</p>	<p>が一部出たということですよ。</p> <p>それから、あともう一つ、避難行動要支援者名簿の話ですが、自治会に入らないけれども支援がほしいということですが、これは、係長、コメントできますか。</p>
<p>町屋委員</p> <p>事務局</p>	<p>地域福祉担当の山田です。ありがとうございました。</p> <p>すみません。私、今までそういう話を聞いたことがなかったのですが、大通でそういう方が実際に出始めたということでしょうか。</p> <p>そうです。</p> <p>町屋委員、避難行動要支援者名簿に一生懸命取り組んでいただいているところですので、ご存知かと思うのですが、避難行動要支援者名簿は民生委員の方に訪問いただいて、こういう制度があるよということで登録するのだったらこれを書いてねということで登録いただいているかと思うのです。登録いただいた方については、名簿登録して、自治会長に名簿が届きまして、実際、支援を担当するのは自治会のほうで行っていただくという制度になっておりますので、そこに加入していないと、こんな方は入っていないよという形になると思いますので、ただ、支援を必要としているということは事実だと思いますので、申し訳ないのですが、その辺は本庁にこういう事例があるのでということで、これは全市的なことなのかもしれないし、南区だけでこうだと決められるところではないと思うので、確認をさせていただいて、確認がとれ次第回答させていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>少し似たような話ですが、基本、自治会、町内会というのは入会は任意なのですよ。入らなければならないという強制力はまったくないのですが、ただ皆さん、想像できるとおり、自治会、町内会に入らないけれどもごみは出すですよ。では、あなたは自治会に入らないから出さないでくださいということは言えないですよ、実際はね。というところで、町内会費をきちんと払っている人からすれば、少し矛盾を感じるようなことがあるかもしれませんが、多分、それと少し似たような話になろうかと思えます。ですが、本当に今と同じような話、この前、中央区のフォーラムで出て、外灯の電気はみんな町内会費からお金を出しているのに、出さない人があその通りを通ってもらっては困るみたいな話が出るのですよ。感情論として。そんなことはできないじゃないですか。あとは、ごみ出しのときも、みんな町内会費を払っている人たちは輪番制でごみステーションの掃除をしているのだけれども、町内会に入らない人は、ある意味</p>

仲野委員

そこにも声もかからないということですね。ですから、いわゆる恩恵と、逆に言うと自分が受ける負担というものがきちんとバランスがとれていればいいのですが、そうすると、それをみんな認めてしまうと、誰も自治会、町内会に入らなくなってしまうという、モラルが破綻してしまうということも懸念しているので、できるだけ町内会には入ってもらいたいと促してはいるのですが、ただそれを強制的な形でやってしまうと大きな問題が出るという。ですから、いろいろな考え方をもっている人がいるのに尊重しましょうというのは当然の話なのですが、ただ、やはり一定のルールやモラルみたいなことは必要なのかなと思って、今の事例をお聞きしていました。ですので、皆様方の町内の中にもそういうことがこれから増えようかと思いますので、お願いしたいと思います。

では、ほか。お待たせいたしました。仲野委員、お願いします。
茨曾根の仲野でございます。

先ほど、本間委員から質問がありました5ページの「はかろう体重」の件で私も聞きたいことがありましたので、質問させていただきたいと思えます。実は、私もこの取り組み、もう何年間も実際に参加しております、1カ月間の体重を毎日計って茨曾根のセンターに持って行くと、カルチャーセンターと市民プールの利用券をいただけるということで、最初のほうはそういうのをもらえるのだったら頑張ってみようかということでやっていたのですが、考えてみたら、あれは紙を1枚もらって、1回プールに行ったらもう終わりというような感じになってしまっているの、1か月一生懸命体重を計って、プールに1回行ったら終わりなのだという感じが、こんなのをやっても大したことはないなと思うようになりまして、先ほど本間さんから指摘があった数が減っているのも、そういうことでリピーターの人も段々離れてしまっているのではないかなと思ったりしています。実際、私、茨曾根のセンターで何人くらいの方が茨曾根で参加しているのかと聞いたら、10人ちょっとかなみたいな、そういうことを言っていましたので、この700人くらいうちの茨曾根地区はたった十何人くらいしか参加していないのだなという感じをもって、取り組みというか、事業としてはこういうので本当にいいのかなみたいな、そういう意識をもっています。

一つ、私の案としては、何か立派な景品をつけて参加者を増やそうとすると、結局お金がかかる話になってしまうので、なるべく市にあるあり物ですませる、お金をあまりかけない方法でやる方法はないの

	<p>かなといろいろ考えたのですけれども、例えば市民プール、1回 500円ですか、お金がかかりますけれども、あれを1か月間フリーパスみたいなものを出して、1か月間だったら何回行ってもプールがただだよというようなこととか、カルチャーセンター、それも1か月間くらい何周走ってもただだよくらいの、そういうのでもやらないと、これは参加者は増えないのではないかなという気がして、人間は目の前に人參をぶら下げられると一生懸命走る、そういうのがあって、目的とすれば、これは体重を計ることによって健康を意識させたり、歩く距離を書いて歩数を増やして身体を健康を増進させようという、そういう目的があるのは非常にいいことだと思っているのですけれども、それをやらせるためのきっかけづくりが少し弱いのではないかと、そういう気がしておりますので、予算的なものもあるものでどこまでできるか分かりませんが、少し検討いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>青木委員長 事務局</p>	<p>ありがとうございます。では、事務局、いかがでしょうか。健康増進係の岩見です。</p> <p>実際にご参加いただいて生の声をお聞きできて、大変よかったです。ご参加ありがとうございました。300円相当の商品券がもらえるか、あるいは公共のプールや入館料などの1回分に使えるか、どちらかを選べるのです。その賞品というのは。一番人気なのは、食べ物とか果物のブドウ狩りのところに入れたりして、食べ物になる、300円券として使う方が圧倒的に多い状況なのですが、今のプールとかランニングコースにお使いいただいている感想としては、1回だけでは習慣化には物足りないという感想があるということは、私も初めて生の声が聞けました。いずれにしても、来年ちょうどこの事業が10年目に当たりますので、賞品を少しリニューアルしていくとか、予算もありますのでいろいろな意味で変えていかなければならないので、先ほどの本間委員の意見と合わせて、魅力的な何か、今の声を加えたようなものを考えていきたいと思います。ご意見ありがとうございました。</p>
<p>仲野委員 青木委員長 藤井委員</p>	<p>よろしくをお願いします。</p> <p>ありがとうございました。ぜひ豪華なものを準備してください。ほかにいかがでしょうか。では、藤井委員、お願いします。</p> <p>民生児童委員の藤井です。</p> <p>4ページの地域包括支援センターの認知向上ということで、とてもありがたいのですけれども、今まで南区社会福祉協議会でやっていてくださったときには、民生委員が何か相談するとすぐに対応していた</p>

<p>青木委員長 事務局</p>	<p>だけたのですけれども、事業所が替わって、南なのですけれども、職員の方が少ないのですよね。相談してもすぐに対応していただけなかったりして、民生委員としてはすごく不安なのです。私たちどうしていいか分からなくて、お聞きしたいことがたくさんあるのですけれども、なかなか包括のほうも一生懸命頑張ってやっつけているのですけれども、人数が少ないのでなかなかすぐに対応していただけないというか、それで少し不安になって市のほうの保健師さんにも相談するようにしたら、保健師さんも一生懸命相談にのっていただいて、私たちいろいろと教えていただけたのですけれども、やはり包括だけでは力不足かなという感じがするので、市の保健師さんたちも積極的に相談にのっていただけると、私たち民生委員も仕事がやりやすいのではないかと思います。よろしくお願いします。</p> <p>では、包括に関してですが、お答えいただけますでしょうか。</p> <p>ご意見ありがとうございます。健康福祉課の倉部と申します。</p> <p>一部の担当保健師につきましては、さまざまな世代の方のご相談に応じるということで、各方面からお声がかかれば、もちろん相談に応じさせていただいております。ですので、もし何かあればお声掛けいただくのもそうですし、あと、いろいろな関係機関、包括支援センターもそうですけれども、一緒に問題解決の対応をさせていただいておりますので、またお声掛けいただければと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>ご指摘ありがとうございます。包括支援センター、今、新潟市内に二十数か所ありますけれども、みんな一生懸命に働いています。南区の包括も本当に頑張っていると思います。恐らく、今の人員の数だけでは多分足りていないのでしょうね。とは言え、人口や高齢化率等で算出した形で職員配置していますので、その不足する部分を、今、保健師さんも何とか応援に入りたいみたいなことのお話がありましたので、ぜひそれを民生委員のお立場で側面支援をしていただけるとありがたいと思います。ありがとうございました。</p>
<p>青木（昭）委員</p>	<p>では、よろしいでしょうか。では、最後にさせてください。</p> <p>公募委員の青木です。</p> <p>5ページです。先ほど来からの「はかろう体重」というようなことでの関連です。ここの令和6年度の計画の中で、配布1万、提出1,000ということで、設定がすでに10パーセントというような回収率なのですけれども、この辺でなぜ50パーセントくらいまで目標値として上げられないのかなという感じがあります。南区独自のこういう企画だと</p>

青木委員長	<p>思うのですけれども、ほかの区でも同じような区独自の企画をやっているかと思うのですけれども、その辺の実態、やはり 10 パーセントに満たないような回収にあるのかどうかという、ほかの区の実態は、似たような企画での回収はどうかかなという感じがいたしました。</p> <p>あと、6 ページです。6 ページの (1) の地域ボランティアの上から 5 番目でしょうか。総合的な学習の時間ということで、30 回ということで 59 回ということなのですから、この 59 回というのは、小中高の 13 校で授業を実施した回数でしょうか。その辺の 59 回の意味合いと、それから福祉教育の授業というのは、主にどのような内容での授業であったか、もし差し支えなければお話していただければと思います。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございます。では 2 点ほど、最初は目標設定のパーセンテージのところでご指摘がありましたが、回答できますでしょうか。</p>
事務局	<p>目標設定がご指摘のとおり、カード配布 1 万枚配って、その提出が 1,000 枚くらいという目標にして、1 割くらいの目標を目指しているところの根拠ですけれども、今年度でこの事業は 9 年目になりますので、この 9 年間の配布枚数の拡大と、大体それを提出してくださる人の割合の推移を見ていって、具体的などころの目標値というところで、提出が 1 割というところが経緯を見て決めた目標値だと思います。そちらの目標がなかなか達成できないものですから、ここ数年はずっと 1,000 提出という目標を変わず設定しているところでございます。</p>
青木委員長	<p>もう一つご質問にありました他所の区でこういう取り組みをしないか、賞品や景品がもらえるような講座があるのか、その場合の提出率はどうかというご質問でしたが、今現在他所の区でこういうインセンティブを出している事業があるかどうか、手持ちの資料ですぐ分かりませんので、後で確認して類似事業があるかないか、その場合のインセンティブの達成者の割合、この 2 点お答えさせていただこうと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
青木委員長	<p>では、よろしいでしょうか。恐らく豪華賞品が今後つくようですので、回収率が多分 5 割くらいになるかもしれませんので、期待してください。</p>
事務局	<p>もう 1 点は、6 ページの福祉教育の部分について、この 59 回の内容とか、福祉教育はどういう授業をしているかというところをお答えいただけますでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。小林でございます。</p>

<p>青木委員長</p>	<p>福祉教育でございますけれども、59回ということで、小学校が10校、中学校が2校ということで、授業ということで入りました。内容につきましては、小学校ごとに違うのですけれども、例えば福祉について、また視覚障がいについてですとか、ボッチャというスポーツがありますけれども、ボッチャ体験ですとか、高齢者について、認知症について等、学校とも話し合いながら内容を決めて入っているということでございます。1回というのは、授業の1コマが1回ということでカウントしての59回ということでございます。</p> <p>青木委員、よろしいでしょうか。目標からいくともものすごい、倍近く膨らんでいるので、これはこれで評価できるわけですがけれども、今ご説明があったとおり、中身に問題が出てくるかと思っております。</p> <p>では、お時間の関係もございますので、高齢者福祉・介護者福祉分野と地域づくり分野については、以上とさせていただきたいと思っております。</p> <p>続きまして、今度は議事の(2)「南区地域福祉アクションプランの地区別計画における令和6年度の取り組みと評価について」、事務局より説明いただきたいと思います。では、お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>南区社会福祉協議会の小林でございます。</p> <p>それでは、南区地域福祉アクションプラン地区別計画における令和6年度の取り組みと評価について」ご説明をさせていただきます。資料は、お配りしました2をご覧くださいいただければと思います。1枚おめくりいただきまして、お願いいたします。</p> <p>こちらは、各地区の今年度の地区別計画の進行について一覧にしたものでございます。表の左側の一番上になりますけれども、令和6年度の推進計画の部分になりますけれども、今年度も6月、7月にかけて地区の推進委員会を中心に、計画推進のための会議を各地区で行いました。今年度は計画期間の後半3年のスタートの年ということで、改めて各地区の人口等の統計から見えてくる課題や地域で相談事として寄せられている課題を振り返り、令和6年度は目標に沿った活動事業としてどういうことに力を入れていくか話し合いをしていただき、令和6年度の目標と取り組みを設定いたしました。表の左側から、各地区の推進目標、令和5年度の課題と次年度への引継ぎの欄がありまして、その右側が今年度の目標と取り組みということでございます。そして、そのまた右側になりますけれども、評価の部分になります。1月から2月下旬にかけて、再度地域の福祉活動を担ってくださっている方々でお集まりいただきまして、地区別計画について、令和</p>

	<p>6年度の取り組み状況はどうであったか、評価するための話し合いを行いました。</p> <p>表の見方につきましては、左側の令和6年度推進計画に対し、評価となっている部分が、今年度の取り組みに対して地区の皆様自身で評価をいただいたものということになります。表の一番右側がその評価の部分ですけれども、それぞれの評価項目ごとに地区の皆様自身で行ってきた活動事業について評価したものになっております。「住民参加」という項目ですけれども、住民参加のもとで地区別計画に取り組んだかという評価になります。また、その右の「協議の場づくり」とあるのは、地区別計画に取り組むにあたって話し合う場を設けたか、そしてその隣の「関係機関団体との連携協働」、「つながりひろがり」となっているのは、取り組みを行うことで地域住民や関係機関・団体等とつながりができたり、活動に広がりがあったりしたかです。また、その次「住民の理解促進」となっているのは、取り組みに対して成果があったか、関心や理解を深められたかです。その隣「周知PR」とあるのは、活動の前後で地域住民や関係機関・団体に対して周知を行ったかという評価項目になっております。いずれも数値で計る指標があるものではないのですけれども、昨年度の活動の事業や取り組みと比較しまして、少しでも前進していたらよい評価とする形になっております。</p> <p>それでは、各地区12地区の取り組みについて、それぞれ代表的なものをご紹介します。</p> <p>まず、新飯田地区からになりますけれども、推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」について、令和5年度から始めた地域の茶の間がない自治会のエリアにおけるコミュニティ協議会主催の移動式茶の間を今年度も継続開催されました。このコミュニティ協議会の働きかけの成果として、一つの自治会で地域の茶の間が立ち上がりました。また、地域の事業所である特別養護老人ホームが茶の間への送迎を担ってくださるなど、地域と福祉施設のつながりも構築されてきています。移動式茶の間の継続については、新たな候補地や送迎の課題なども出てきています。</p> <p>推進目標の二つ目「地域活動への住民の参加推進」では、ボランティアグループ「ふおうはあと」を中心に、季節ごとに多世代が楽しめる行事を企画、開催され、地域の世代間交流が活発になりました。</p> <p>次に、茨曾根地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、小学校6年生が総合的な学習で福祉について学び、地域の</p>
--	---

茶の間訪問や学校での地域の茶の間開催を企画し、子どもたちと高齢者の交流が深まりました。また、グランドゴルフやボッチャなど、楽しく交流しながら、介護予防になる活動を地域で広げることにもチャレンジしました。

推進目標の二つ目「子どもたちを地域で育てる取組み」では、茨曾根フェスティバルなどの地域イベントをとおして、若い世代の参画が進み、「ママのしゃべり場」などの子育て世代のかかわる活動が活発になってきています。一方で、地域の役員の負担や女性の役員の参加が少ないことなども課題になっており、今後の検討になっております。

次に、1枚おめくりをお願いいたします。庄瀬地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」において、生活支援サービス「なじらね庄瀬」を継続し、利用者も拡大してきています。一方で、取り組むことでの課題も見えてきており、それらを話し合うことで地域のつながりが強くなってきています。

推進目標の三つ目「防災・減災活動への取組み」では、小学校と防災訓練を合同実施し、実際に災害のときに生きるマニュアルや連絡体制を検討しました。

次に、小林地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、生活支援サービス「お助け隊こぼやし通信」の発行やスタッフ交流会を継続し、活動するボランティアを育てる活動を行っています。通院などの送迎や付き添いなど、活動が活発になるについてさまざまな課題が生まれており、今後も検討を継続していくという必要がございます。

次に、臼井地区です。推進目標の一つ目「交流・仲間づくりができる集まる場がある地区」では、小学校と合同での防災訓練を開催いたしました。今後は、保育園や高齢者施設から災害時の避難支援について相談がきているため、地域と施設と一緒に検討していく必要があります。

推進目標の二つ目の「ボランティアや地区活動を理解し関心をもてる地区」では、あいさつ運動や腹いっぱい運動などの事業を通じて、小学生や中学生がボランティア活動、地区活動に参加する機会や多世代交流の機会をつくりました。

次に、大郷地区です。推進目標の二つ目「担い手の育成」では、小学生との多世代交流事業を、令和5年度から引き続き開催しました。地域に活動が定着しつつあり、多くの参加がありました。

次の推進目標「災害への取組み」では、「子ども防災教室」を開催、

地域みんなの防災意識の向上を目標に活動を行いました。次年度は、小学校と合同での防災訓練なども検討することを話し合われています。

次のページです。鷺巻地区です。推進目標の二つ目「交流の機会の創出」では、「コミュニティカフェわしのき」を毎月1回開催し、その中で認知症をテーマに勉強会を開催、若い世代だけでなく、自治会の役員なども参加があり、もう一つの推進目標である「支え合いのしくみづくり」にもつながる機会にもなりました。

推進目標の四つ目「人材育成・人材確保」では、民生委員と自治会長、コミ協役員の合同情報交換会を開催し、地域の心配な方々についても情報共有しながら、地域の担い手についても話題にしました。「コミュニティカフェわしのき」が活動の中心になっていますが、多世代の参加ができるような工夫が必要という意見も出ていました。

次に、根岸地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、栄東自治会でごみ出し支援事業を自治会事業としてスタートさせ、こうした活動が地域全体で必要だという意見も出されています。次年度は、地域内のごみ出しなどで困っている方がどのくらいいるのかということ調べることも検討されました。

推進目標三つめ「若い世代の参画・交流できる場の推進」では、「あやめ祭り」をきっかけに、これまで役員などではなかった人たちがブースの運営などで参画するようになり、地域の多様な人たちが地域活動に参加するきっかけを今後も工夫することが話し合われました。

次に、大通地区です。推進目標の一つ目「地域活動への住民の参画推進」では、秋祭りの企画を工夫し、高校生の参加や若い世代のダンスサークルなども参加があり、楽しめる内容から地域活動に参加するきっかけをつくることができました。

推進目標の二つ目「支え合いのしくみづくり」では、生活支援サービス「おもいやりネット」の活動を継続し、その中で生活支援サービスサミットを大通地区を会場に開催し、ほかの地区の取り組みと情報交換を行いました。

推進目標四つ目「つながりのある地域づくり」では、こども食堂へのボランティア参加がきっかけになり、これまで地域の活動にあまり参加していなかった年代の活動者が増えてきています。課題としては、地区内の福祉事業所等の社会資源と災害時の連携など、今後、話し合っていくことを検討されました。

次に、白根地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」

では、生活支援サービス「白根お互いさま支援隊」の活動を継続され、利用する高齢者などから喜ばれています。一方で、支援する側の方々が高齢化、また一部の方に負担が偏るなどの課題も出ており、今後の課題となっております。

推進目標の二つ目「災害への取組み」ですけれども、自主防災組織が中心となって各地区で防災訓練を開催しました。中学校や高校への参加案内をし生徒との連携を検討しましたが、参加がなかったため、まずは地域行事への参加などを提案するなどの検討が必要という意見が出ていました。

次のページです。味方地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、生活支援サービス「みんなの味方応援隊」が活動することで、地域の高齢者等のさまざまなニーズが分かるようになってきています。通院の支援など、新たな課題への取り組みも始まりました。一方で、担い手の問題や活動上の課題も出てきており、今後も地域全体で検討していく必要があります。

推進目標の二つ目「地域共生社会の実現」では、既存の祭りや郷土芸能などの機会をとおして、子どもたちが楽しめて役割を担える機会を創出し、子どものうちから交流できる機会を継続していくことの大切さが話し合われました。

次に、月潟地区です。推進目標の一つ目「支え合いのしくみづくり」では、「つきがた便利帳」の配布をきっかけに、民生委員と自治会長と的高齢者に関する情報共有ができるなど、取り組みの成果が出ています。また、高齢者を支える資源の少ない月潟の西側のエリアで、「お試し茶の間」、「ふれあい茶の間」を地区社会福祉協議会の協力で開催、今後も活動を希望する声を把握することができました。

推進目標の四つ目「情報発信」では、コミ協通信や月潟便利帳、住民バス活用のための広報活動などを通じて、情報にアクセスしにくい地域住民にさまざまな形で情報を届ける工夫を行いました。

以上、南区全12地区の今年度の取り組みについてご説明をいたしました。時間の関係上すべてをご紹介することはできませんでしたが、各地区の取り組みから見えてきた課題や次年度に取り組む引継ぎ事項なども評価会議では検討されました。令和7年度の推進につきましても、今年度の評価をもとにアクションプラン推進員と一緒に地域の方々と計画をしてまいりたいと思っております。令和6年度の地区別計画の取り組みと評価についての報告は、以上でございます。ありがとうございました。

青木委員長	<p>ありがとうございました。では、今ほどのご説明に関して、ご意見、ご質問がございましたら、どうぞ挙手のうえ発言いただきたいと思えます。いかがでしょうか。では、青木委員、お願いします。</p>
青木（昭）委員	<p>度々申し訳ございません。このような各地区の活動状況、目標に対しての活動状況のご説明があったのですが、一つはあれなのですが、ここの記載というか、報告の形として、取り組んだ活動事業のところ、活動事業に参加した世帯数であるとか、かかわった参加数というのを記入することはできないのかということと、それから、各地区、防災・減災への取り組みということでやっている内容の中で、各地区に防災士がどのくらいいるのかというような数字もこの内容に反映できないのかなという感じがしました。以上です。</p>
青木委員長 事務局	<p>ありがとうございました。この辺はいかがでしょうか。事務局。</p> <p>ありがとうございます。取り組んだ活動事業の参加した世帯数等の記入ということでございますけれども、今の表の作りでなかなかスペースがというところもあって記入はしていないところなのですけれども、ポイントとして記入できるようなところがあれば、それは各地区の方ともご相談しながら、記入ができるかどうかを検討していきたいと思っています。</p> <p>併せて防災士の方が各地区にどのくらいいらっしゃるかというところも、地域の方で分かるかどうかというところもあります。また区役所とも相談して、書ける状況であるかどうかとも検討させていただければと思います。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございました。青木委員がおっしゃりたいのは、文字ずらだけでなかなか評価がしにくいので、こういういわゆる数字、量的なところも少し見てみたいということの話です。私も本当にそれは大事なことだと、それが例えば増えているからとか、減っているからということであまりいい、いい、いいという評価はできないと思うので、それは、冒頭に小林局長がお話ししたとおり、まずこのABCとつけているのは、これはまず各地区ごとの自己評価なわけですよ。まず、自分たちが立てた目標がうまくいったかどうかということ、これをまず自分たちで評価しているわけですので、これを我々は実際にその現場にすべて参加して見ているわけではないので、できればそういう数字的なものも合わせて見せてくださいという趣旨だと思いますので、非常に重要なご指摘だと思います。とは言え、これらを集計したり載せたりするのも地区のお仕事になりますので、ご無理のない範囲で、次年度以降の計画の中に量的なものを少し含めたものの記</p>

<p>宮崎委員</p>	<p>載があると、委員の皆さんも理解がしやすいだろうということのご指摘だと思います。ありがとうございました。</p> <p>では、ほかにいかがでしょうか。では、宮崎委員、お願いいたします。</p> <p>すみません。同じであれですけれども、青木さん、私ども鷺巻地区で、数の把握ということに関しては、事業ごとに報告書、計画書、報告書を作っていますので、その計画に対するものはあまりないのですけれども、実際に何人参加したか、そういうものについては把握しています。ただ、ここにすべて載せられません。評価としてこれだけ推移があれば、急に落ちれば、その原因であるとか、増えたら増えた原因、そういうものは、集まって反省会ではないのですけれども、次年度はどのようにやろうか、その報告書は各地区の皆さんもお持ちなのではないかなと思います。ただ、表現としてここに一括には、先生が言われたように、なかなか載せにくい。また、数で評価はできないという辺りは、仕方ないかなと。</p> <p>あと、防災士も、私ども鷺巻地区、自主防災を非常に頑張っていると思いますので、防災士も増えています。今、4人います。団体としては小さい団体ですけれども、年々ということはないのですが、最低限この地区、2地区分に一人はほしいねということで、今、9地区でやっておりますので4人で何とか、そういう災害がなければ一番いいのですが、あった場合は皆で助け合おうというようなことで、まずは防災士にリーダーとして育ててもらって、頑張っていると思いますけれども。以上です。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>宮崎委員から補足をいただきました。ありがとうございました。まさに宮崎委員がおっしゃったとおり、数字で計れないことのほうがむしろ数が多いわけですので、繰り返しになりますが、ご無理のない範囲で、次年度以降、検討いただければと思います。</p> <p>では、ほかの皆様方、いかがでしょうか。では、藤島委員、お願いします。</p>
<p>藤島委員</p>	<p>二度目になります。すみません。味方のほうは、支え合いのしくみづくりということで、随分活発になってきたなと思っています。2月6日に雪が降り始めたときに、もうにっちもさっちもいかない人たちが、通院、通院ということで、すごく電話が殺到したということになっていました。あとは、雪かき支援もしていましたので、そこもやはり雪ということになると一斉にきていたりで、少し大変したかなというところでは。2月6日頃の雪で新潟交通のバスが走れなくなりまし</p>

<p>青木委員長</p>	<p>て、学校も休校ということで、味方を過ぎると、西区に入ると全然雪がない状態で、味方はとても雪がたくさんで大変でした。病院のほうの支援ということになりますと、南区は割と先生がお亡くなりになったり、眼科はもう手術ができないということで、味方は南区内は通院の送り迎えができるということで、味方というとな変なところとか、かえって黒埼のほうに近い、瀬東地区が近い、中之口のほうがいいという感じがあるのですけれども、南区のほうの病院関係をもっと皆さんに知ってほしいなという、今、総合病院が大変なことになっているとか、混みあっていて大変だということを知っていました。ということで、以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。この計画書の中に書かれている内容でのお問い合わせ、確認とかご意見以外でも、今のように、皆様方それぞれコミュニティ協議会の関係の皆様方、委員になっておられますので、自分のところの地区の最近の様子などでもかまいませんので、ぜひ情報共有いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。評価というところだけを見てしまえば、すべてA評価というところがほとんどですので、予定通り、皆様方のところでは順調にいったのかなということは想像できるわけですが、いかがでしょうか。</p> <p>そうしましたら、もう少し時間がございますので、今ほど挙手をいただいてご発言された方以外の方も、今日のこの委員会にご参加いただいた感想でもけっこうですので、一言ずつ最後にいただいてマイクをお返ししたいと思います。そうしましたら、時計回りでいきますが、古川委員、突然ですけれども、何かご感想でもけっこうですし、自らの地区のことでもけっこうですが、コメントをいただけますでしょうか。</p>
<p>古川委員</p>	<p>庄瀬地区の古川と申します。私自身、アクションプランの推進委員ということで、まだ仰せつかったばかりで、初心者マークで自分自身が全然アクションしていない現状なのですけれども、やはり私の住んでいる庄瀬地区のまず私自身がいろいろなこういう課題があるのだなとか、こういう問題点があるのだな、こういう取り組みもしているのだなという、それを把握する、今、そういう段階で、本当にこの場にいるのがお恥ずかしい感じなのですけれども、やはりいろいろな地区の課題とか取り組みを見ると、やはりいろいろなことをしていらっしゃるなということで、自分の地域にもいろいろな取り組みとか課題に</p>

青木委員長	<p>私なりに少しずつ取り組んでいけたらなと思っています。短いですが、以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p>
泉委員	<p>では、泉委員、お願いいたします。</p>
泉委員	<p>小林地区の泉と申します。私も隣の方と同じく、初めてというか、こういうところに参加するうえで、これだけの立派な意見をされて圧倒されて何を言っているかわからないのですが、徐々に参加して、皆さんがどういうことを考えているとか、いろいろなことをやっているのを少しずつでも実感していきたいと思います。ただ、私たち小林は、お助け隊というものがあまして、この隊が集まったのがまだ2月のはじめだったもので、大雪のときにたくさん依頼がきたのではないかなと思っています。私が実際にしたわけではないのですが、隣の家とか、今、高齢者の方がたくさんいて、手伝ってもらったありがとうございましたと言って何回か私の家にお礼に来られた方がいらっしやいますので、やはりこれはお助け隊もそうですし、ご近所付き合いはしていったほうがいいなと思いました。これで失礼します。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございました。</p>
阿部委員	<p>では、阿部委員、お願いいたします。</p>
阿部委員	<p>臼井コミュニティ協議会の阿部でございます。</p> <p>一昨年、コミ長をやりまして、誰もこのアクションプランとか支え合いをやる人間がないということで私のところにきて、及ばずながら何とかお手伝いしますということで始めています。本当に支え合いで皆様雪かき隊ですとか、病院に行く方の送迎とか、うまく回っていらっしやること、今度はこういう会議の場ではなく座談会の場のようなもので、うまくいっている内容を教えてレクチャーしていただければありがたいと思って聞いておりました。</p> <p>一つだけ、申し訳ございません。この場でお尋ねしていいものなのかどうなのか分からないのですが、避難行動支援というところで我々苦勞しておまして、臼井地区で高齢者施設があまして、デイサービスと泊まっていらっしやる方、深夜におられる方が14名ほどおられて、その施設の方々から、当直の職員が一人か二人しかいないと。すぐ堤防を越えると信濃川なのです。ですから、それが増水したときに、深夜に何かあった、すぐ避難しなければいけない、あるいは昨年1月1日のように地震が起こったというときに、道路が寸断されてその人たちをどこかに運んでくれる人は誰がいるのかと聞かれたときに、コミュニティで何とか助けてもらえないかと相談を受けているので</p>

	<p>す。ところが、私も認知症の親を一人抱えていまして、では親を背負って逃げなければいけない、そういう人間が手伝いに行けるかどうか。そういうところで自主防災に聞いてみても、なかなか手が挙がってこない。昼間は仕事に行っている、いろいろな状況があって、そういう方々、避難支援の方々をどう助けていくのか、あるいは高齢者施設をどう我々で守っていけるかということで大変苦慮しております、この場でお尋ねすることではないかとは思いますが、自治体として、例えば機動力のある民間会社と何かタイアップをして、それは例えばトラックをやっている運送会社がいいのか、タクシー会社がいいのか、それとも事故を起こしたときにアルソックが駆けつけてくれるような、あのような方々が人的にポンと一人、二人、三人走って来てくれるかとか、そういう民間の企業に助けを求めるような考え方としてはありなのかなということ、法的な問題とか、予算の問題もあるかと思うのですが、もし方向性としてありなのかないなのか、検討している、まったく論外というのがもしあれば、お聞かせいただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
<p>青木委員長 事務局</p>	<p>では、係長、いかがですか。</p> <p>ありがとうございます。避難行動要支援者名簿で、今ほど宿泊施設、高齢者の宿泊施設に入られている方の避難についてということでお問い合わせいただいたかと思うのですが、今、ちょうど先ほどもお話ししたように、避難行動要支援者名簿に登録されている方が宿泊施設に入っている場合、福祉の宿泊施設に入っているので、基本的には施設のほうで対応できないかというところもあるのですが、その対応については全庁的なことであるので、今、名簿の担当の防災課のほうにこういう考え方を整理してくれということで投げかけている最中でして、今の段階ではお答えできないのですが、市として公的なところに委託してというようなお話もあったかと思うのですが、現状は、市として自治会の中でというところで制度として作っておりますので、今のところはまだ公的なところに有料でというところまで話はいっていない段階です。</p>
<p>阿部委員 青木委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>大事なことですよね。夜勤帯に一人で泊っているひとをね、ただ、水害であれば、何となく雨の量とかで体制を整えていくというのがあるのでしょうか、地震とか突然起こると分かりませんよね。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>水害のときに、事前に3時間、4時間と猶予があるならば、その間で何とかできる手立てはないのかなと。人吉でしたか、九州のほうで</p>

<p>青木委員長</p>	<p>そういう施設が川に水没してしまって多く方々が亡くなられたという話をニュースで聞いたことがあるので、その二の舞とか、轍は踏みたくないで、何かできることがあれば今のうちに手立てできないかなという願いはあります。よろしくお願ひします。失礼しました。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、続いて遠藤委員、お願ひします。</p>
<p>遠藤委員</p>	<p>私もアクション委員会に2回目の参加なので、まだ初心者マークが取れない状況です。大郷地区が直面している一番の問題は、やはり子どもが減って10年くらい前から小学校の統合という話が出て、またこの3月20にも説明会があります。正直なところ、2年後には複式学級になることが決まっているそうです。子どもがどんどん減っているということと、あと、ご存知のとおり、梨と野菜の産地なので、それが理由でいろいろなコミュニティ協議会の行事も役員がその仕事に携わっているで、その合間を縫って皆さん時間を割いてくださって行事をされているということ、できる限り行事に参加して、そう思いました。</p> <p>あとは、小学校との連携は、私はとても素晴らしと思って、公民館と一緒に大鷲シニアクラブで子どもたちと一緒に音楽を聴いたりカプラで遊んだり、子どもたちの花壇作りにコミュニティ協議会が手伝いに行ったり、また学童と一緒に土作りから植えて、最後にカレーを作って、皆で親子で作って食べるという、一貫した年間を通した活動も素晴らしいなど、私は参加して思いました。そして、なおかつ農家が多いということで、田植えとか、それから稲刈りとか、それから梨もぎとか、そういうことを地域の協力によって子どもたちが参加できるのも、学校では教えてくれないいろいろな経験ができて、子どもたちはすごく幸せだなど。少数だからできるいろいろな活動を、地域やコミュニティ協議会や公民館の支援を受けながら1年中楽しんで、子どもたち、先ほども言ったのですけれども、保育園のほうは鷲ノ木さんが一生懸命支援していらっしゃる様子で、大郷は小学校の法の支援に強力に回って、敬老会で子どもたちが踊りを見せて参加したりと、老若男女を皆加えて、世代間交流もあれですが、なかなか人をつなぐにはチラシだけでは集まらないなど、人をつなぐには、やはり人なのだなどということを実感した1年でした。以上です。</p>
<p>青木委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、池田委員、お願ひいたします。</p>
<p>池田委員</p>	<p>根岸の池田です。</p>

<p>青木委員長</p>	<p>私も今回2回目で、去年1年何をしてきたのだろうかというのが実感なのですがけれども、地域のコミュニティ協議会に根岸は置いていかれているなど。第一部の全体の会議のときも、何か根岸はいいことないかなと、いいことをしてこなかったかなと思っていたのですがけれども、根岸なりには今年もとりあえずと言ったら悪いのですが、皆、頑張ったのでAをいただきましたし、今年こそはもう少し、嫌われてもいいからもう少しコミュニティ協議会の中に入って行って、ああしたらいいのではないかと、こうしたらいいのではないかとこのを言いたいなと思うのですが、アクションプランは何なのだろうかというのがまだ根強くありまして、何とか皆さん頑張っておられるので、私ももう少し地域に突っ込んだ意見とか、いろいろ言いたい、言えるようになりたいなと思いました。皆さん、どうもありがとうございました。勉強になりました。</p>
<p>長谷川委員</p>	<p>ありがとうございました。 では、長谷川委員、お願いします。 白根コミュニティ協議会の長谷川です。 支え合いのしくみづくりで、一応「お互いさま」が助け合って活動を始まってきているのですが、ボランティアの人も少ないし、依頼者も限られた人ばかりで、こういうのがあるのを知らないのではないかとこのことで、今度、自治会長会あたりを通じてもう少し広報しなければいけないという話はしているのですが、でも、地域づくりという面から考えると、こういう仕組みに頼ることがいいのかなという疑問もあって、例えば町内あたりのごく狭い隣近所で助け合えるような状況のほうがより理想的なのではなかろうかというような意見もあって、少し悩んでいるところもあります。でも、今回、私たちの仕組みの中では、家の中に入らないで、草取りとかごみ出しとか除雪とかに限っているのですが、今度、家の中に入ったりの支援も考えてみなければいけないねという話が出ています。今後の課題だと思います。 それからもう一つ、災害の取り組みなのですが、私たちが防災訓練とか防災講座をやると、集まる方は大体ある程度年齢が大きな方で、ちょうど現職世代は集まらない。どちらかと言うと、小中高生あたりの子どもたちを相手にすると言ったら失礼だけれども、それを対象にして取り組んでいくほうが、むしろ力になっていくのではないかとこの感じもしています。ですが、今年の防災講座はどうしようかという話にはなっているのですが、それから要支援の人たち</p>

<p>青木委員長</p>	<p>をどうするというのもいつも出てくる問題で、我々白根地域で地震の場合は仕方ないけれども、考えられるのは中之口川が切れることだよねという話になると、在宅で2階以上のところに避難するのも方法の一つになるのかなということで、無理やり避難所へ行こうということにならなくてもいいのではないかという話もしています。例えば避難所の場所が遠かったりする場合には、むしろ一時避難所的なところがあるといいなということで、南部では2か所ほど4階、3階の建物にお願いしてあるところがあります。でも、公共の建物ではないので、昼間であれば誰かがいるのでしょけれども、夜だった場合はだめだよねという話もあって、今のところお願いはしてあるけれども、利用したというあれはありません。</p> <p>そういうことで、また地震があったらどうするみたいな話は頻繁に会議で話題になるのですけれども、例えば災害弱者と言われるのは目の不自由な人だとか、身の不自由な人だとか、そういう障がいをもっている人たちとか女の人たち、若い人たちとかという人たちに対する考えができていないよねという話はいつも出ておまして、まだまだ課題だらけだなと思っているところです。以上です。</p>
<p>小武内委員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、小武内委員、お願いします。</p> <p>月潟の小武内です。</p> <p>私もアクションプラン推進委員になってまだ1年目なので、この会議、取り組みと評価の報告になると思うのですけれども、この会議も初めてです。アクションプラン推進委員になって1年目、コミュニティ協議会のほうでいろいろな行事、内容、それに携わってきたのですが、結局、ここで今日の報告で取り組んだ活動事業の中で、月潟はすべてA判定にしました。このA判定というのは、考え方があって、先ほどパーセンテージで、目標を立てて、そのパーセンテージでABC判定ができるというような意味合いのことを言われましたが、確かにA判定、この月潟のA判定というのは、なぜA判定にしたかという、これにかかわった行事をやったよねと、やっただけであって、その内容はどうだったのかというところの落とし込み、細かいところまでの落とし込みは確かにやっていない項目もあるのだけれども、やったというだけでもってA判定、かかわったよねということでA判定に今回しました。そういうことで、次回から先ほど提案もあったように、どこまでやったのか、A判定がB判定になるのか、もしくはやったのだけれども、目標に対してのC判定だよねという、そういう判定</p>

青木委員長	<p>になるのかはこれからも検討していかなければだめだと思うのですが、そういうところで、今度は2年目に入るのですけれども、そこも勉強していかなければだめなのかなと思っています。</p> <p>あと、コミュニティ協議会の行事、やはり1年間とおしてたくさんあります。そこには、私自身も先ほど少し話がありましたけれども、そういう行事というのは地元には参加していませんでした。いろいろな行事があるのだと、ここ1年、たった1年ですけれども、勉強させてもらいました。来年、もっと勉強して、地元の行事にかかわりたいと思います。私のほうは、以上とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>これですべての皆様方、一言ずつご発言いただいたかと思います。では、お時間の関係もありますので、議事の(2)「地区別計画の取り組みと評価について」は以上とさせていただきます。</p> <p>では、本日いただいたさまざまなご意見、ご要望等につきまして、事務局は計画に活かされるよう進めていただければと思います。</p> <p>以上で、本日予定された議事はすべて終了いたしました。最後に全体をとおして何かご意見、ご質問などがございましたらご発言いただけますでしょうか。よろしいでしょうか。</p>
()	<p>またぶり返す話ではないのですが、地区に外国人の方がアパートというか、一軒家を借りて数名、一人ではなくて、家族でもなくて、何人も人がいるのです。先ほどの自治会費というのは実は不動産屋さん、多分借家になっている形なので、不動産屋さんからいただいているので何ら問題はないみたいなのですが、これから外国人の方が増えてきた場合、個人の方に日本のこういう制度があるよと、どのように手振りで伝えていいのか、また理解してもらえるのか、そういうものも市のほうで、公用語は日本語なのですが、やはり二、三か国語くらいの案内が、そういう書面があると接しやすいような気がしますので、ぜひ今後そういうのも作っていただきたいと、要望が一つです。以上です。</p>
青木委員長	<p>ありがとうございます。このことに関して、何か事務局でできることはありますでしょうか。</p>
事務局	<p>ご意見ありがとうございます。外国人が増えてきているというのは、新潟市もそれほど大幅ではないですが、やはり増えてきている認識もあって、本庁で言うと国際課というのがあって、そこが今音頭を取って、そういう住んでいる方に向けてとか、その対応をそれぞれ年代に応じて、けっこう高齢者というよりは、どちらかと言うと親子</p>

<p>青木委員長</p>	<p>でとか、そういう方が多いということで、そういう方向けに、例えば子どもさんであれば保育園はどうだとか、今、それでワーキンググループを立ち上げて、今後増えていく、今までの数字を見ても増えていくのは明らかに見えているという中で、今、全庁的にそのようなワーキングをやっている、健康福祉課も入っていたりするので、そういう中でそういう話が出てくるかと思えますので、今の話も含めて、課題というか、現状として今後考えていく一つとしては共有していければと思いましたので、そのようなこととお話を伺いましたということにさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>では、ほかによろしいでしょうか。では、なければ、ちょうど時間になりましたけれども、皆様方のご協力のおかげで円滑なる意見交換、また情報交換ができたかと思えますので、感謝いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>では、司会に進行をお返ししたいと思います。</p> <p>青木委員長、ありがとうございました。</p> <p>続いて次第の4「連絡事項」でございます。</p> <p>次回の会議の開催は、来年度の8月頃を予定しております。今年の8月頃を予定しております。時期が近づきましたら、また改めてご案内をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、以上をもちまして、令和6年度第2回南区地域福祉アクションプラン推進委員会を終了いたします。長時間に渡りましてありがとうございました。</p>